



新しいライフスタイル発見 『東京の森のカフェ』

金丸弘美
食総合プロデューサー

ライターズネットワーク大賞の授賞式が、今年も行われた。この賞は、ライター、カメラマン、エディター、イラストレーターなどクリエイターの親睦会ライターズネットワーク主催で、毎年開催しているものだ。「身内が身内を褒めなくてどうする」という趣旨で始まったもの。ささやかな集いだが、受賞メンバーは、嬉しさに満ち溢れている。受賞者の仕事を拝見することで、こちらにも励みになるし、新たな発想の視点も得ることができるのが楽しい。

今年の大賞は、『東京の森のカフェ』（書肆侃侃房刊）を執筆した柵沢永子さん。

柵沢さんが、3年間かけて、自ら写真を撮り、まとめた東京都内の、それこそ、緑に囲まれた優雅な時間を過ごすことができるカフェを取り上げたものだ。

実は、受賞式が行われたのが、本にも登場する駒場にある東京大学に隣接した日本近代文学館内喫茶室『BUNDAN COFFEE & BEER』だった。東大のすぐそばで、周辺は木々と緑があふれている。隣が図書館で、静かな環境だ。しかもカフェには大きな本棚に本が天井まで埋まっている。受賞にふさわしいシチュエーション。それと都市にありながら、一步、足を踏み入れることで、まるで別世界に誘ってくれる。

柵沢さんは、出版した会社の営業担当だった。営業周りで、書店の店員さんに、かつて森のレストランという本があり好評だったと教えられた。そこで、出版社に企画を提案したところ、あなたが書きなさいということになって、カメラを購入して、取材を始め、3年がかりで本にまとめたのだという。その3年という時間がよかつたのかもしれない。吟味されたカフェが登場して、まるでアリスの世界ではないが、異次元の空間に招いてくれるような書籍になっている。

36軒のカフェが登場する。どれも個性的で、緑豊かで、静かな雰囲気、ここらに安らぎをもたらしてくれそうなところばかり。都内と言え、再開発と商業ビルの喧騒ばかりが話題になりがちだが、この本は、まったく違った東京にいやしの時間を提示してくれる。むしろ、これからの時代には、この森カフェこそが、持続社会にとって必要なことではないかと、示唆しているかのように思える。

柵沢さんが受賞の場で、「ぜひお勧めしたいのが、日野市の『Clare Home & Garden』。WOLFのメンバーで海外の人を受け入れているんです」と言う。

WOLFとは、World Wide Opportunities on Organic Farms のこと。「世界に広がる有機農場

での機会」と呼ばれるネットワーク。イギリスの大学から始まったそうで、農村のお手伝いに行く代わり、無料で泊めてもらい、そこでノウハウを学ぶという活動だ。これが好評で、いまでは、60か国に広がっている。日本では札幌に事務局があり、迎えるホストとして登録をしているのは400か所近くある。

これまで、大分県玖珠町の農家民泊『蕨原おわて』、広島県世羅町『ジェラート工房 Donna』、島根県海士町の民宿運営と干しナマコを作る『但馬屋』、和歌山県田辺市の宿『霧の里たかはら』などのW O O Fのホストのところにうかがったが、場所は山間地や離島だ。ところが、どこも人気で、多くの人たちが内外から訪れている。目からウロコである。新たな交流の流れが生まれているのだった。

まさか都内にもあるとは知らなかった。

そこでさっそく訪ねてみることにした。日野市はJR新宿駅から電車で約40分。日野駅から駅前の通りをまっすぐに歩いて、ちよつと脇にそれた道沿いに『Clare Home & Garden』



庭先のハーブモティーとして登場

はあつた。

600坪ある

という敷地には花々があふれ、小さな池もあり、そこには鳥たちのさえずりが聞こえる。重厚な木造の一軒家があり、そこがカフェと雑貨店。2階はご主人が創るといふ家具店になっている。

なかに入るとしつかりした梁、柱に囲まれて、なかには、木のどっしりしたテーブルが置かれている。雑貨やジャムやハーブティなども販売されている。次々にお客さんがやってくるが、どうやら人づてで口コミの人のようだ。一軒家のような作りだから、通りすがりだと、そこでお茶や食事ができるなんて、誰も思わないだろう。厨房では、英語が聞こえる。あとで、従業員さんに尋ねたら、W O O Fで来た中国とフランスの人がお店の手伝いをしているのだとか。なんだかイギリスのB & B（ブレックファースト&ベッドルームの略。イギリスの地方に多くある宿泊ができる民家や農家に来たような雰囲気。なんでも、ご主人がイギリスの家にほれ込んで、材料を取り寄せて作ったのだとか。この日いただいたのは、スープ、サラダ、パン、アイリッシュポークのアップルソース添え、イチジクとクルミのケーキ、アールグレイの紅茶のランチ。

『東京の森のカフェ』は、新しい東京のライフスタイルの扉を開いてくれたようだ。



アイリッシュポークのアップルソース添え